

上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間評価報告書

令和元年5月

上田市

目 次

I 上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	
1 位置付け	3
2 対象期間	3
3 上田市人口の現状と将来展望	3
4 戦略の概要	4
II 「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中間評価について	
1 趣旨	6
2 進捗管理及び評価の方法	6
III 数値目標の進捗状況及び中間評価	
1 総括	7
2 進捗状況及び中間評価の一覧	8
3 評価シート	
(1) 上田で働きたい戦略	9
(2) 結婚・子育てしたい戦略	10
(3) 訪れたい・住みたいうえだ戦略	12
(4) ひと・地域の輝き戦略	13
4 施策体系別個表	
1-①地域経済の雇用を牽引するものづくり産業の振興	15
1-②人材育成・雇用マッチングの拡充	17
1-③若者等の多様な働き方の支援	18
1-④農林業の稼ぐ力の創出	19
1-⑤多様な産業の集積促進	21
2-①結婚につながる出会いの応援	22
2-②きめ細やかな出産・子育て支援推進	24
2-③未来に繋がる特色ある教育の推進	26
3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進	28
3-②移住相談、受入体制のワンストップ化促進	30
3-③移住・二地域居住を促進する施策の推進	31
4-①安心の医療サービスが受けられる環境づくり	32
4-②健康寿命を延伸する施策の推進	34
4-③暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充	36
4-④地域の主体のまちづくりを進める地域内分権推進	37
4-⑤まちとまち、人と人を繋ぐ広域連携促進	38

1 位置付け

上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）は、第二次上田市総合計画を基本とし、人口減少への歯止めと人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化に向けた施策について、さらに深化、展開させるものとして策定され、その実行により、若者層をはじめ、あらゆる世代が「住みたい、住み続けたいと思う上田市」になることを目指します。

なお、総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）に規定する市町村版総合戦略として位置づけられるものです。

2 対象期間

平成 27 年度（2015 年度）から平成 31 年度（2019 年度）までの 5 年間

3 上田市の人口の現状と将来展望

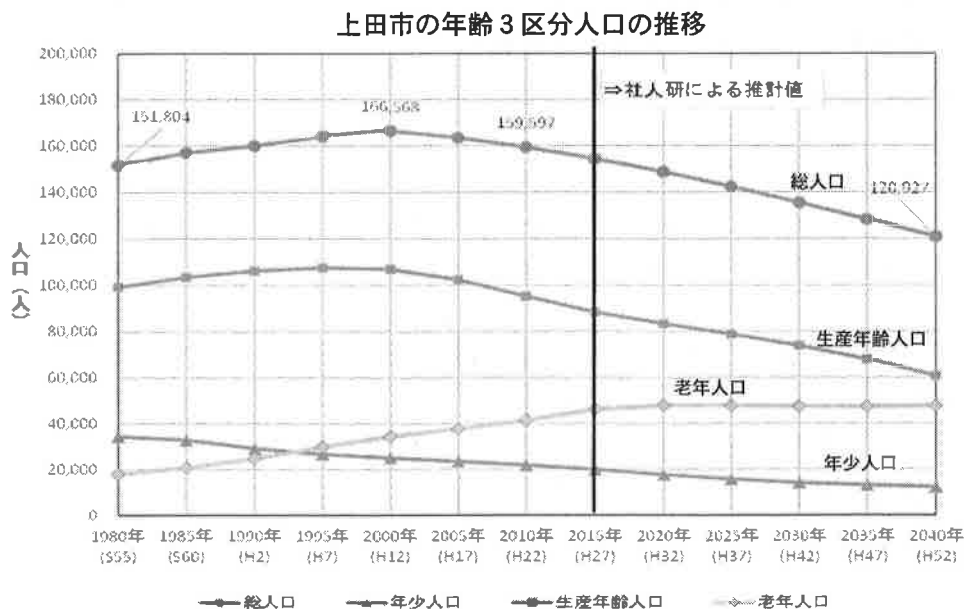
(1) 人口の現状と今後の推移 ※総合戦略策定時

本市の人口は、平成 22 年（2010 年）の国勢調査では 159,597 人でした。

平成 12 年（2000 年）の 166,568 人（国勢調査人口）をピークに減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計によると、今後も減少傾向は続き、平成 22 年（2010 年）から平成 52 年（2040 年）までの 30 年間で約 39,000 人減少（減少率 24%）すると推計されています。

年齢 3 区分別の人口は、年少人口と生産年齢人口は減少傾向にあり、一方で老年人口は増加傾向にあります。平成 7 年（1995 年）には老年人口が年少人口を上回り、少子高齢化が進展しています。

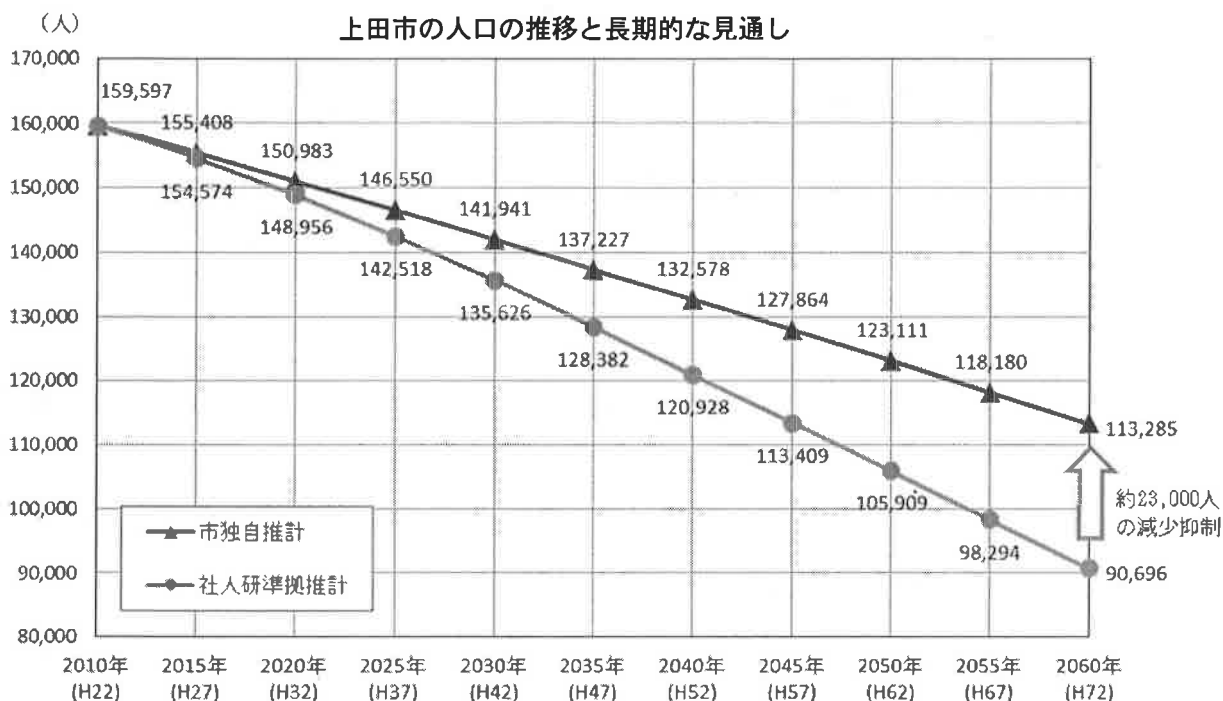
今後、老年人口の増加傾向は収まりますが、年少人口と生産年齢人口の減少傾向は続くと考えられ平成 52 年（2040 年）には生産年齢人口 1.27 人で 1 人の老年人口を支えることになります。



(2) 将来展望

総合戦略の着実な推進を通じて、合計特殊出生率の改善と、若い世代（64歳以下）の流出抑制及び転入増を図り、当市の人口減少速度抑制と中長期的な人口の安定化を目指します。

具体的には、平成72年（2060年）時点の人口113,285人を目標値として掲げ、社人研推計値90,696人と比較して、22,589人（19.9%）の減少抑制を実現します。



4 戦略の概要

前述の将来展望の実現に向けた基本的な考え方として、『上田市創生の基本方針』5項目を示した上で、4つの基本目標と各目標達成のための4つの戦略、16の施策体系を展開しています。

【上田市創生の基本方針（戦略の施策構築と実行にあたっての基本的考え方）】

- (1) 豊かな暮らしと人生を支える雇用の創出、
- (2) 若者の結婚・子育ての夢・希望の実現、
- (3) 人・地域を育てまちの活力を生む学園都市づくり、
- (4) 住み良いまち・うえだの魅力アップと積極的発信、
- (5) 安心の暮らしと健康長寿のまちづくり、

【基本目標 / 戦略 / 施策体系】

基本目標	戦略名	施策体系
1) 就業機会の拡大と多様性を創出する	上田で働きたい戦略	<ul style="list-style-type: none"> ①地域経済雇用を牽引するものづくり産業の振興 ②人材育成・雇用マッチングの拡充 ③若者等の多様な働き方の支援 ④農林業の稼ぐ力の創出 ⑤多様な産業の集積促進
2) 人口の自然減に歯止めをかける	結婚・子育てしたい戦略	<ul style="list-style-type: none"> ①結婚につながる出会いの応援 ②きめ細やかな出産・子育て支援推進 ③未来に繋がる特色ある教育の推進
3) 人口の社会増を増やす	訪れたい・住みたいうえだ戦略	<ul style="list-style-type: none"> ①地域資源を生かした知名度アップと交流促進 ②移住相談、受入体制のワンストップ化促進 ③移住・二地域居住を促進する施策の推進
4) 安心して暮らし続けられる地域をつくる	ひと・地域の輝き戦略	<ul style="list-style-type: none"> ①安心の医療サービスが受けられる環境づくり ②健康寿命を延伸する施策の推進 ③暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充 ④地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進 ⑤まちとまち、人と人を繋ぐ広域連携促進

II 「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中間評価について

1 趣旨

平成 27 年 10 月に策定し、27 年度から 31 年度の 5 年間を計画期間とする「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、総合戦略）は、第二次上田市総合計画を基本とし、人口減少への歯止めと人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化に向けた施策について、さらに深化、展開させるものとして取り組み、平成 29 年度で計画期間の半分が経過しました。

総合戦略の計画終了時における重要業績評価指標（KPI）の着実な達成を目指す上で、これまでの進捗状況を適切に把握し、残り計画期間における各種取組の改善等に繋げることが重要であり、期間前半の取組を整理・検証することで、各種課題や今後の方針等を明らかにすることが必要となります。

このため、総合戦略の中間評価を行い、総合戦略の今後の効果的推進につなげるとともに、計画期間終了後の地方創生の取組についての検討材料とします。

2 進捗管理及び評価の方法

進捗管理については、4 つの戦略に設定した各種数値目標及び、戦略にぶら下がる 16 施策に設定した重要業績評価指標（KPI）ごとに、平成 29 年度末時点の実績値を踏まえて進捗状況を分析、最終的な目標達成見込みまで見据え、以下 4 段階で評価します。

評 価	評 価 内 容
S	目標達成済み
A	目標達成に向けて順調に進捗中
B	目標達成には努力を要する
C	目標達成が困難である
—	判定不可（統計未公表等、基準値以降数値の更新がなされていない）

Ⅲ 数値目標と重要業績評価指標（KPI）の進捗状況及び中間評価

1 総括

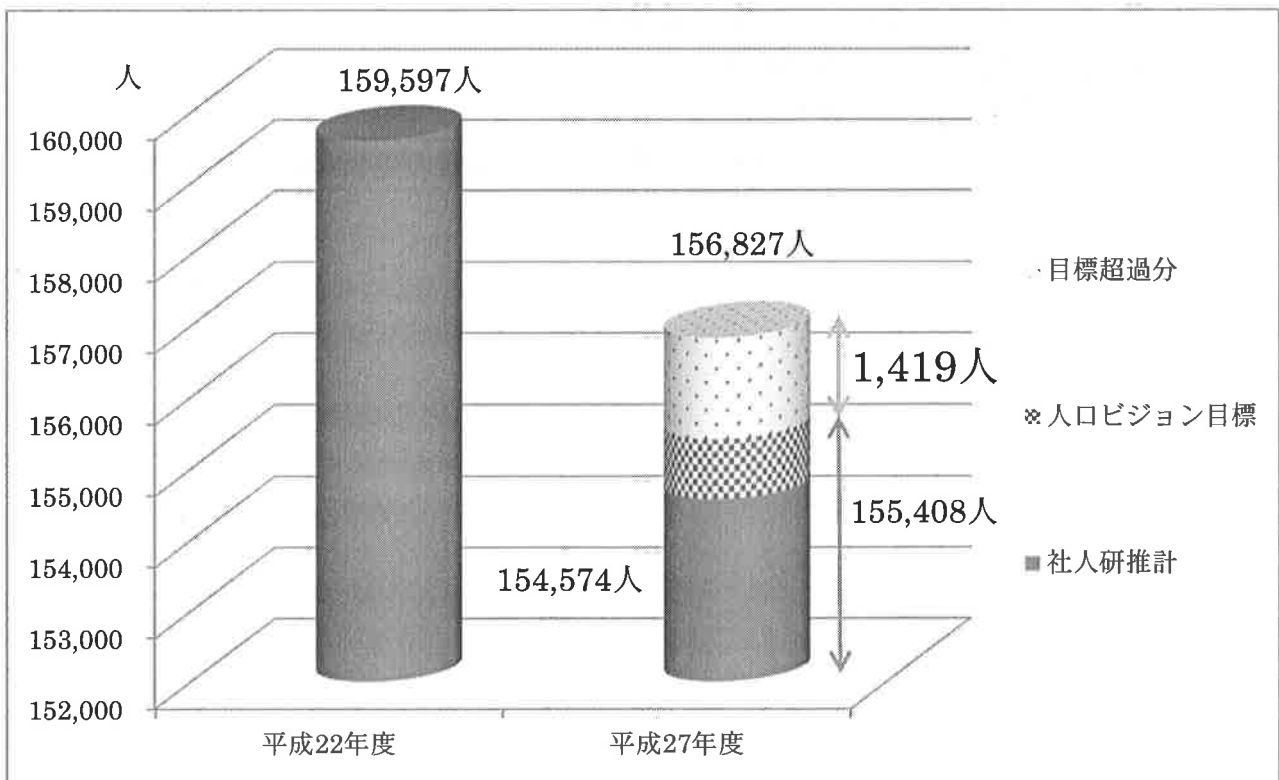
総合戦略では、長期的な目標人口を113,285人（2060年）と定め、各種取組を通じて、社人研推計の人口減少幅を抑制することを目指しています。

短期的には、平成27年度155,408人、平成32年度150,983人を目標としており、平成27年度実績値（国勢調査）は156,827人と目標を達成しました。

総合戦略の各種取組による定住人口確保の効果（影響）が明らかとなる平成32年度の国勢調査結果が公表されるのは平成33年（2021年）度以降となる予定ですが、上田市住民基本台帳に基づく毎月人口移動調査によれば、以下表に示すとおり、自然動態は出生数の漸減と死亡数の緩やかな増加に伴い自然減が拡大傾向にあり、引き続き、子育て支援策推進等による出生率の改善や、健康施策の充実による健康寿命の延伸等に注力する必要があります。

一方、社会動態を見ると、平成23年以降、平成30年まで8年連続で転入数が転出数を上回る社会増を維持しているなど、一定の改善傾向が見られます。この傾向を更に拡大できるよう、社会増要因の分析や、社会環境・住民ニーズの動向を見極めつつ、雇用環境、子育て・教育環境をはじめとする包括的な生活環境を整備、維持するための各種取組を立案、実施してまいります。

上田市人口推移（人口ビジョン目標と国勢調査確報値）



上田市 住民基本台帳に基づく人口異動数の推移（人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
自然動態	△ 396	△ 408	△ 467	△ 472	△ 625	△ 626	△ 627	△ 659	△ 850	△ 785
出生	1,263	1,348	1,294	1,278	1,217	1,206	1,191	1,123	1,096	1,127
死亡	△ 1,659	△ 1,756	△ 1,761	△ 1,750	△ 1,842	△ 1,832	△ 1,818	△ 1,782	△ 1,946	△ 1,912
社会動態	△ 930	△ 460	87	44	338	282	322	542	414	599
転入	5,335	4,810	5,153	4,676	4,699	4,799	4,880	4,892	4,901	5,296
県内	2,528	2,195	2,390	2,210	2,206	2,288	2,293	2,235	2,139	2,273
県外（国内）	2,058	1,954	2,184	1,833	1,899	1,869	1,925	1,970	2,010	2,181
国外	749	661	579	633	594	642	662	687	752	842
転出	△ 6,265	△ 5,270	△ 5,066	△ 4,632	△ 4,361	△ 4,517	△ 4,558	△ 4,350	△ 4,487	△ 4,697
県内	△ 2,429	△ 2,083	△ 2,120	△ 2,026	△ 2,072	△ 2,053	△ 2,088	△ 1,894	△ 2,072	△ 2,141
県外（国内）	△ 2,766	△ 2,282	△ 2,322	△ 2,279	△ 2,182	△ 2,242	△ 2,231	△ 2,238	△ 2,199	△ 2,270
国外	△ 1,070	△ 905	△ 624	△ 327	△ 107	△ 222	△ 239	△ 218	△ 216	△ 286

出典：毎月人口異動調査集計

2 進捗状況及び中間評価の一覧

基本目標	中間評価	指標	当初値	目標値	最新数値	指標評価
上田で働きたい戦略	A	従業者数（人）	69,198 (H24)	70,000 (H31)	71,860 (H28)	S
		産業が元気な街になっていると感じる市民の割合（％）	10 (H26)	20 (H31)	-	-
結婚・子育てしたい戦略	B	合計特殊出生率（％）	1.54 (H25)	1.59 (H31)	1.47 (H29)	B
訪れたい・住みたいうえだ戦略	A	社会移動（転入－転出）者数（人）	282 (H26)	446 (H31)	414 (H29)	A
ひと・地域の輝き戦略	B	健康寿命【男性：1、女性：2】（歳）	1:78.92 2:83.19 (H22)	延伸 (H31)	-	-

戦略名	1.上田で働きたい戦略				戦略 中間評価	A
基本目標	【就業機会の拡大と多様性を創出する】 ものづくり産業のイノベーションと多様な産業の集積と成長を促進するとともに、企業と就業希望者をつなぐ人材育成や雇用マッチングを促進し、意欲ある若者や女性が活躍できる環境を整備することにより、就業機会の拡大と多様性を創出します。					
◆数値目標						
従業者数（全業種） 出典：地域経済分析システム（RESAS）			当初値 （人）	69,198 （H24）	目標値 （人）	70,000 （H31）
実績値 （人）	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
	－	71,860	－			S
産業が元気なまちになっていると感じる市民の割合 出典：市民アンケート調査			当初値 （%）	10 （H26）	目標値 （%）	20 （H31）
実績値 （%）	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
	－	－	－			－
<参考数値> 製造品出荷額 出典：地域経済分析システム（RESAS）			当初値 （百万円）	465,552 （H26）	目標値 （百万円）	485,000 （H31）
実績値 （百万円）	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
	463,415	475,348	－			(A)
◆戦略の進捗分析/評価（総括）						
<ul style="list-style-type: none"> ・従業者数は近年の全国的な経済環境の好調もあり、H28年時点で71,860人、当初値から3.8%増（H31目標達成度102.6%）となっており順調に増加。市民アンケートは5年毎に実施しており、現時点で未集計。市内製造品出荷額についてはH28年時点で、当初値から2.5%増（H31目標達成度98%）となっており堅調に増加傾向にある。上田市の雇用、経済環境は目標達成に向けて順調に進捗している。 ・上田市では企業の旺盛な設備投資需要を受け、各種補助制度等で新製品開発や新分野開拓、生産性向上等を支援するほか、東信州次世代産業推進協議会を通じて地域の産学官連携を促進するなどソフト面での企業支援にも力を入れている。また、企業誘致・留置に向けた新たな工業団地造成にも取り組むなど、雇用の受け皿となる市内の産業振興を多面的、積極的に進めている。 ・一方で、全国的な傾向でもあるが、中小企業やサービス業における人材確保が困難となっており、UIJターン人材や多様な働き方ニーズを持つ人材の育成やマッチングが急務となっている。上田市では、UIJターン希望者と地元企業とのマッチング事業や、若年求職者の地元企業就職に向けた伴走支援等で一定の成果を上げてきており、引き続き当該分野の取り組みに力を入れていく予定。 ・また、保護主義の台頭など国際経済が不安定要素を抱える中、上田市の主要産業である製造業に加え、ソフトウェア産業や農業など多様な産業の誘致、育成にも力を入れていくことが重要であり、コワーキングスペース運営支援や、起業、創業のハードルを下げるための各種支援に取り組んでいる。 ・上記のとおり進行中の取り組みや継続的な課題を認識しつつも足元での地域経済の堅調さ、雇用環境の底堅さ、これまでの成果等を踏まえ、総合的には中間評価を「A」とする。 						

戦略名	2結婚・子育てしたい戦略				戦略 中間評価	B	
基本目標	【人口の自然減に歯止めをかける】 結婚、出産、子育ての切れ目のない支援と特色ある教育に取り組むとともに、地域ぐるみで子どもを育む環境を整え、子どもを産み育てたいと思われるまちづくりにより、人口の自然減に歯止めをかけます。						
◆数値目標							
合計特殊出生率				当初値 (%)	1.54 (H25)	目標値 (%)	1.59 (H31)
実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	1.60	1.45	1.47	—	—	B	
<参考数値> 出生数				当初値 (人)	1,206 (H26)	目標値 (人)	—
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	1,191	1,123	1,096	1,127	—	(B)	
<参考数値> 婚姻数(暦年)				当初値 (件)	741 (H26)	目標値 (件)	—
実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	754	730	733	—	—	(B)	
◆戦略の進捗分析/評価(総括)							
<ul style="list-style-type: none"> 数値目標としている「合計特殊出生率」については、平成25年から平成27年まで増加傾向にあったが、平成28年には前年比0.15ポイントの減少となった。要因としては、分母となる25歳から34歳の女性数が前年度より増え、全体の女性数を押し上げたことに対して、分子となる出生数が減少したことによるものだが、合計特殊出生率は、出産年齢の変化やその年の女性人口、出生数の増減によって推計値が短期的に変動しやすく評価がしづらい面がある。出生数自体は近年微減傾向にあったが平成30年はわずかながら増加に転じており平成31年以降の傾向に注目してまいりたい。 結婚支援については、全国的にも生涯未婚率の上昇、晩婚化傾向であるが、平成29年度に上田市が市民及び企業に実施した「結婚支援事業アンケート調査」結果では、未婚者の約7割超は結婚をしたいと考えている。一方、出会いの場が少ない、仕事と婚活の両立に不安があるとの回答も多く、幅広い年齢の結婚希望ニーズに対しきめ細やかな対応が求められている。こうしたことから、民間団体等のノウハウを生かしたセミナーやイベントの開催を行うとともに、平成28年度に開設された結婚～子育て応援サイトや平成30年度に試行開始したSNSを利用した情報提供等により結婚機運の醸成に努めるなど、積極的な取組を進めている。婚姻数の拡大が顕著に現れるまでには地道な取組の継続が必要となるが、セミナー等への参加応募者数が増加するなど、結婚機運の醸成は徐々に高まってきていると感じられる。 妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援については、妊娠期から子育て期にわたる総合的相談のワンストップ拠点として平成28年度に子育て世代包括支援センターを整備し、情報共有と新たな課題への対応を図ってきている。 							

- ・安心安全な妊娠・出産体制の構築については、上田市立産婦人科病院において医療スタッフの確保や信州上田医療センターとの連携など一定の成果は上げてきているが、医師の退職により常勤医師 1 名となったことから引き続き関係機関への協力を要請し、医師の確保に努めなければならない。
- ・また、子育て中の保護者の孤立感や不安感を払しょくするとともに、子育ての負担を軽減するため、子育て支援センターを中心に子育てサポーターやボランティアとの協働により、子育て世帯の交流の場の提供や相談・支援体制の強化を図っている。
- ・加えて、子育てと仕事との両立のためには、保護者の就労形態や多様なニーズに対応した乳幼児保育や延長・休日保育、一時預かり保育など保育サービスの充実を図るとともに、児童館・児童センター、児童クラブ等の放課後児童対策施設の計画的な整備とニーズに応じた運営が必要となっている。市民や現場のニーズに応じて市として対応を進めてきており、子育て環境の一層の充実に向け引き続き各種サービス・施設の整備に取り組んでいく。
- ・地域の教育力を強化する取組としては、サントミュージゼを拠点とした各種芸術、文化交流事業を行うほか、小学校においては、ICT 機器を導入し、児童生徒の学力の向上に努めている。
- ・また、幼保小中の連携を引き続き行うとともに、課題となっている高等教育機関との連携にも取り組むことが必要となっている。
- ・さらには、長野大学の公立大学法人化が図られたことから、今後は、市内 4 大学等との協働により市内の賑わいの創出と交流人口の拡大に積極的に取り組んでいく。
- ・上田市では結婚支援、子育て支援、特色ある教育施策など人口の自然減に歯止めをかけるべく、各種施策に着実に取り組んでいるが、出生数減少は全国的な課題であり、急激に出生数を増加させる特効薬はないことから、引き続き、市民ニーズを丁寧に把握するとともに効果的な事業の持続的実施が求められている。堅実な事業運営が行われているものの、出生数、婚姻数といった具体的な数値に改善が見られるとまでは言えず、短期的な目標達成には努力を有すると考えるため、総合的な中間評価を「B」とする。

戦略名	3.訪れたい・住みたいいうえだ戦略				戦略 中間評価	A	
基本目標	<p>【人口の社会増を伸ばす】</p> <p>上田の暮らしや観光など様々な魅力をトータルで積極的に発信し、交流人口を拡大するとともに、移住相談から定住に繋げるきめ細かい受け入れ体制を構築し、若者からアクティブシニアまで幅広く呼び込み社会増を伸ばします。</p>						
◆数値目標							
社会移動（転入者数－転出者数） 出典：住民基本台帳に基づく人口異動数				当初値 (人)	282 (H26)	目標値 (人)	446 (H31)
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	322	542	414	599	－	A	
◆戦略の進捗分析/評価（総括）							
<ul style="list-style-type: none"> ・上田市では、平成 23 年以降、平成 30 年まで 8 年連続で転入数が転出数を上回る社会増を維持しており、加えて近年社会増の幅が拡大基調にあるなど、一定の成果が上がっている。 ・社会増の一因である移住促進施策では、関東を中心に都市圏で実施する移住相談会（第 1 段階）、移住後の具体的生活イメージに繋げる 1 泊 2 日の市内移住体験ツアー（第 2 段階）、具体的な移住希望者との個別相談（第 3 段階）等、各段階の取り組みを積極的に展開。移住希望者の移住後の生活（仕事、住居等）にも丁寧に寄り添い、行政支援による移住者数は県内でもトップクラスとなっている（H29 県外移住者数 96 人は県内最多）。 ・また、平成 28 年に上田ゆかりの戦国武将「真田信繁（幸村）」を題材とした NHK 大河ドラマ「真田丸」が放映され、市の知名度、注目度が飛躍的に向上したこともあり、観光客数も大きく増加した。 ・今後はこの知名度、注目度の向上を一過性のものとしなため、既存観光資源の発信や磨き上げはもとより、新たな地域資源の発掘や、関係自治体等との連携を通じた交流人口、関係人口の拡大を図ることが重要と認識し施策を推進している。 ・併せて、観光だけにとどまらない上田市の魅力、イメージを効果的、戦略的に発信することを目的として、首都圏のメディア発信等を活用した「上田市シティプロモーション事業」を展開し、さいたま市を中心とする東日本連携への参画などに繋げている。 ・以上の取り組み状況や成果を踏まえ、総合的には中間評価を「A」とし、引き続き一層の社会増を目指して施策を展開することとする。 							

戦略名	4.ひと・地域の輝き戦略					戦略 中間評価	B	
基本目標	【安心して暮らし続けられる地域をつくる】 人口減少社会に対応する行政経営と住民自治を推進し、市民の健康と暮らしの安心を守り、子どもからお年寄りまで誰もが元気で暮らしやすいまちづくりを目指します。							
◆数値目標								
健康寿命【男性：1、女性：2】					当初値 (歳)	1：78.92 2：83.19 (H22)	目標値 (歳)	1：延伸 2：延伸 (H31)
実績値 (歳)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	—	—	—	—	—	—		
<参考数値> 要介護認定者数					当初値 (人)	8,872 (H26)	目標値 (人)	—
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	8,958	8,903	8,759	—	—	(A)		
<参考数値> 国民保険加入者特定健康診査受診率					当初値 (%)	37.5 (H26)	目標値 (%)	—
実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	37.6	37.8	38.5	—	—	(A)		
◆戦略の進捗分析/評価（総括）								
<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命は、平成24年厚生労働省科学研究班が開発した「健康寿命の算出プログラム」により、長野県が、平成22年のデータ（日常生活動作が自立している期間の平均（要介護度2以上を不健康な状態とする）、人口、死亡数）を使用して算出し、平成27年4月に「市町村別健康寿命」として公表しているが、その後の算出はなされていない。 他の指標を見れば、上田市の要介護認定者数は徐々に減少傾向にあり、また「健康づくりチャレンジポイント制度事業」の導入や各種啓発活動により、国民保険加入者における特定健康診査受診率も堅調に上昇している状況にあり、市民の健康づくりは一定程度進展していると言える。一方、市の重要課題に位置付けられる糖尿病予備群の割合は依然高い比率にあり、今後も課題に応じた重点的な対策が必要。 圏域外への救急搬送率は減少傾向であるが、目標達成には継続した取組が必要。医療機関の役割分担やかかりつけ医の必要性を理解する市民の割合は高く、継続的な情報提供活動が奏功している。 住民の足となる公共交通の維持・確保を図る上では、利便性の向上等を通じた利用者の拡大が重要となる。運賃低減バスの運行実証などに取り組んだ結果、利用者の増に一定の効果は見られるものの、目標となる赤字解消に向けては更なる努力、工夫が必要な状況にある。 住み良い環境づくりに向けた、市民協働、広域連携等の取り組みは今のところ順調に進められており、今後は目標達成に向けた着実な事業推進と、構築された体制を生かした効果的な取り組みの創出を図っていくことが重要。 安心して暮らし続けられる地域づくりという幅広い視点で各種取組を着実に実施しているものの、健康、医療関連指標の達成、公共交通の中長期的な維持、確保に向けては一層の努力を要することを踏まえ、総合的には中間評価を「B」とする。 								

4 施策体系別個表

施策名	1-① 地域経済雇用を牽引するものづくり産業の振興						
基本方向	産学官金の連携や広域連携を促進するとともに、積極的に新分野や自社ブランド確立、販路開拓に取り組む企業を支援し、地域のものづくり産業の競争力を高め、雇用の維持・創出を図ります。						
重要業績評価指標 (KPI)	製造品出荷額等に対する製造業の粗付加価値額の割合 出典：長野県工業統計			当初値 (%)	40.1 (H25)	目標値 (%)	43 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		40.8	41.3	-	-	-	A
	製造業取引流入額 出典：地域経済分析システム(RESAS)			当初値 (百万円)	143,827 (H25)	目標値 (百万円)	160,000 (H31)
	実績値 (百万円)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	-	-	-	-	-
	<参考 KPI> 製造品出荷額 出典：地域経済分析システム(RESAS)			当初値 (百万円)	465,552 (H26)	目標値 (百万円)	485,000 (H31)
	実績値 (百万円)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		463,415	475,348	-	-	-	(A)
	<参考 KPI> 現金給与総額 (従業者 4 人以上の事業所) 出典：長野県工業統計			当初値 (百万円)	71,516 (H25)	目標値 (百万円)	-
実績値 (百万円)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	69,337	87,597	-	-	-	(A)	
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	東信州 9 市町村の広域連携により、次世代イノベーション産業の創出を推進する体制を整え、地域産業の目指す方向性、具体的な方策を実施している。また、地域経済を牽引する市内企業において、新たな設備投資等が実施され、業績の拡大や、雇用増加に繋がり、地域の活性化が図られている。さらに、新たに開発された商品が主力商品になった事例など、着実に信州上田ブランドについても向上が図られている。				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 成功事例を PR することで、信州上田ブランドの新たな商品開発を促す。 国の施策（生産性向上特別措置法）と合わせ、市内企業における積極的な設備投資や企業マッチング、受発注拡大に向けたネットワーク強化等、市内企業の活性化を促進させる。 						
主な取組①	【事業名】ブランディング支援事業 【事業概要】 地域資源等を有効活用した商品開発・改良を支援することで、信州上田ブランドの向上を図り、地域産業の発展を促す。(H29：5 件)						

<p>主な取組②</p>	<p>【事業名】産金官連携雇用創出事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>成長産業への進出や新分野への進出する事業を、金融機関の融資と協調し支援し、地域産業の振興を図る。(H28 : 3 件、 H29 : 3 件)</p>
<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】基幹産業推進体制事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>製造業、非製造業（サービス業）を問わず、市内企業の受発注拡大、販路拡大、業務改善及び生産性向上につながるきめ細かな支援を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内製造業の域内受発注体制確立と受発注拡大を図るため、マッチングや展示会等への共同出展等を支援。(共同出展H29 : 6 回、域内外受発注マッチング等H29 : 128 件) ・市内製造業の販路開拓拡大を支援するため、コーディネーターによる伴走支援、専門家派遣による相談及び首都圏等で開催される展示会出展を支援。(延べ企業訪問数 (H28 : 347 件、H29 : 382 件)、専門家派遣企業数 (H28 : 3 社 7 回、H29 : 9 社 21 回)、共同出展 (H28 : 2 回、H29 : 2 回)、ものづくり補助金申請支援 (H29 : 10 件))
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】東信州広域連携事業推進</p> <p>【事業概要】</p> <p>東信州 9 市町村の広域連携により、次世代産業創出に向けた開発プロジェクト及び人材確保・人材育成、地域内連携促進や広報宣伝支援のほか、公的資金申請支援等、域内企業支援を幅広く推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産産・産学連携支援事業 (マッチング会 (H28 : 2 回、H29 : 4 回)、技術講演会 (H28 : 2 回、H29 : 2 回)、先進企業見学会 (H28 : 2 回、H29 : 2 回)、技術展示会 (H28 : 2 回、H29 : 2 回)) ・人材確保事業 (H28 : 5 回、H29 : 6 回) ・人材育成事業 (H28 : 8 回、H29 : 26 回) ・トップセミナー (H28 : 2 回、H29 : 2 回)
<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】中小企業者等販路拡大事業補助金</p> <p>【事業概要】</p> <p>地域産業の発展を図るため、市内の中小企業者等が行う販路拡大を目的とした展示会への出展に要する経費に対し補助金を交付する。</p> <p>(H27 : 16 件、H28 : 28 件、H29 : 47 件)</p>

施策名	1-② 人材育成・雇用マッチングの拡充						
基本方向	関係機関等と連携した人材育成や UIJ ターンの取組みを強化するとともに、大学等と連携したキャリア教育を推進し、若年層を中心とする求職者の地元企業への就業を促進します。						
重要業績評価指標 (KPI)	高校卒業就業者に占める市内就職者の割合 (ハローワーク上田管内)			当初値 (%)	60.3 (H25)	目標値 (%)	65.0 (H31)
	実績値 (%)	H27 58.6	H28 57.6	H29 50.6	H30 -	H31 -	進捗評価 B
	市内4大学等最終学年者のうち上田市での就職を 予定・希望する割合			当初値 (%)	15.0 (H25)	目標値 (%)	20.0 (H31)
	実績値 (%)	H27 14.3	H28 15.3	H29 18.3	H30 -	H31 -	進捗評価 A
	施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	<p>ノウハウを有する民間の職業紹介（人材育成）事業所への委託を通じて、移住者にとっては、住まい、生活、子育て、医療等について様々な不安感を抱えるなか、最重要課題である就職において、移住定住推進課をはじめとした関係機関との連携、情報共有を図りながら、移住希望者と地域企業とのマッチングを促進し、行政支援による移住者数の増加につなげている。</p> <p>また、様々な事情により、地域の未就職の若年求職者等に対する人材育成研修を行う就職支援や職場研修を通じた雇用マッチングの促進により、地域企業における就労の成果が出ている。</p>			
	今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 雇用促進部局と移住推進部局の連携を密に取りながら、当該事業の認知度を向上させるとともに、上田地域での就業希望者と地元企業のマッチングを積極的に推進する。 20～40代の夫婦及び子育て世代の移住・就職相談が増加傾向にあり、実績等を積み上げる中で、引き続き関係機関と情報共有を図り、効果的な連携の在り方を検討していく。 					
主な取組①	<p>【事業名】UIJターン就職支援事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>UIJターン希望者の就業相談に対し、民間やハローワークの求人等、地域の総合的な就職情報を一体的に提供するとともに、希望者には「企業見学」として、地域企業での職場見学を通じて雇用マッチングの機会を提供し、上田市への移住を誘導した。</p> <p>H28:相談者数 112名、のべ相談件数 782件、登録者数 70名、マッチング 14名 H29:相談者数 156名、のべ相談件数 920件、登録者数 67名、マッチング 13名</p>						
主な取組②	<p>【事業名】地域若者等定住就職支援事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>様々な事情による未就職の地域若年求職者等の人材育成（基礎研修（OFF-JT）、職場体験研修（OJT））を行う就職支援により、就労意識の醸成、スキルアップを図るとともに、職場研修を通じた雇用マッチングを推進し、地域における定住を促進した。</p> <p>（H28:研修生 18名受入 17名雇用、H29:研修生 20名受入 16名雇用）</p>						

施策名	1-③ 若者等の多様な働き方の支援							
基本方向	新たな地域活性化の担い手として、意欲ある若者、女性、アクティブシニア層の起業や多様な働き方を応援する環境を整えます。							
重要業績評価指標 (KPI)	若者(39歳以下)による創業件数				当初値 (件)	22 (H26)	目標値 (件)	30 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		11	19	21	-	-	A	
	女性の創業件数				当初値 (件)	5 (H26)	目標値 (件)	10 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		10	16	17	-	-	S	
	創業比率 出典：地域経済分析システム(RESAS)				当初値 (%)	1.33 (H21-24)	目標値 (%)	2.00 (H27-30)
実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	4.32	4.32	-	-	-	S		
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	働き方に制約がある、子育て女性の雇用を拡大することができ、安定的な収入を得られる形を構築できた。また、上田市創業支援プラットフォームの連携を密にすることで、開業に向けた継続的な支援を実施することが可能となった。					
今後の 取組方針	子育て女性の更なる雇用拡大や仕事の創出のためには、パートナー企業の獲得活動を継続していく必要がある。また、創業に向けた連携については、金融機関や商工会等と支援状況の共有や課題を共有しながら進めていく必要がある。							
主な取組①	【事業名】 子育て女性社会進出促進支援事業 【事業概要】 子育て中の女性を対象に、スキルアップや安定的な収入の改善を実施。 H27：簿記講座等のスキルアップセミナー13講座45回、延べ467人 H28：ビジネスマナー研修講座等11講座54回、延べ657人 H29：継続的な専門スキルの育成（パート雇用人数36人、首都圏とのパートナー企業1社）							
主な取組②	【事業名】 創業促進支援事業 【事業概要】 創業10年未満の者を対象に、家賃、改修費の補助を実施。 H28：家賃支援（8件、3,339千円）、改修費支援（4件、214千円） H29：家賃支援（11件、2,474千円）、改修費支援（1件、1,133千円）							
主な取組③	【事業名】 上田市創業支援プラットフォーム事業 【事業概要】 上田商工会議所、（一財）浅間リサーチエクステンションセンター、上田市において、創業セミナー、伴走型創業支援の実施 H27：創業スクール、女性起業家フォーラム、起業創業者相談会など H28：創業セミナー、女性のための創業スクールなど H29：創業相談、女性のための創業スクールなど							

施策名	1-④ 農林業の稼ぐ力の創出						
基本方向	安定的な生産活動を促進する環境づくりを進めるとともに、6次産業化や産地化推進など新たな付加価値を生む農林業の振興を図ります。						
重要業績評価指標 (KPI)	農産物販売金額 出典：地域経済分析システム (RESAS)			当初値 (万円)	680,550 (H22)	目標値 (万円)	750,000 (H31)
	実績値 (万円)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	-	-			-
	6次産業化計画 (総合事業計画) の認定事業者数			当初値 (件)	3 (H26)	目標値 (件)	6 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		3	3	3	-	-	B
	新規就農者数			当初値 (件)	7 (H26)	目標値 (件)	40 (H27-31 累計)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		11	24	37	-	-	A
	<参考 KPI> 農業産出額 出典：地域経済分析システム (RESAS)			当初値 (万円)	813,000 (H26)	目標値 (単位)	-
実績値 (万円)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	844,000	828,000	-	-	-	(B)	
施策 中間評価	B	評価根拠/ 現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が6次産業に関わる事業を行う際に国等の助成制度を活用しやすくするために、平成29年度に「上田市6次産業化等に関する戦略」を策定し、市内では1次・2次・3次事業者が協力・連携するネットワーク型6次産業化の取組として、塩田産大豆「ナカセンナリ」を原料とした高価格帯でも売れる付加価値の付いた味噌の商品開発など成果が生まれつつある。 ・安定的な生産活動を促進するためには、担い手農家の減少に歯止めをかける必要があるため、異業種企業を含め新たな担い手を確保する取組みについて、JAなどの関係機関や近隣市町村と連携する体制づくりについて協議を進めている。 ・しかし、6次産業化計画認定事業者数や農業算出額が十分な伸びを示すまでには至っておらず、引き続き目標達成に向けた努力を要する。 				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農林畜水産物の販売戦略に関することや農業の6次産業化の推進に関することを推進する中で、行政の持つ公益性、信用性、情報力、金融機関等の各機関とのつながり等の強みを活かし、生産者やJA等の関係団体とともに、当地域の農産物のブランド化に向けた取り組みを進める。 ・県やJA等の関係機関や近隣市町村と連携してUIJターン就農を含めた新規就農者を確保・育成・定着できるようきめ細かな支援体制を構築する。 ・東信地区で初の木質バイオマス発電所が稼働することから、地域産の木質バイオマスエネルギーの搬入及び更なる消費について調査研究したい。 						

<p>主な取組①</p>	<p>【事業名】6次産業化推進事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>ワイン用ブドウの栽培適地である千曲川沿いの特徴を活かし、千曲川ワインバレー特区連絡協議会と連携し、地域ワイン産業のPR、上田市独自品種「ヤマブドウ系ワイン用ぶどう」の栽培研究、苗木及び資材購入補助による新規就農者拡大に向けた取り組みを行い、ワイン等による地域ブランドの創出を図る。</p> <p>・ワイン用ブドウ苗木及び資材補助 (H27:4人1,670千円,H28:6人2,354千円,H29:2人1,670千円)</p>
<p>主な取組②</p>	<p>【事業名】人・農地プランに基づく市内6地区での話合</p> <p>【事業概要】</p> <p>市内6地区(上田東・西部・塩田・丸子・真田・武石地区)で各地域の中心となる担い手や地域での将来の農地利用のあり方や近い将来農地の出し手となる者等を地域で話し合い、人農地プランで示し、地域で共有する。人・農地プランは毎年見直しを行う。 (地区懇談会等話合の回数) H27:49回 H28:36回 H29:40回</p>
<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】高性能林業機械導入補助事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>信州上小森林組合が要件を満たす林業機械を導入する際に補助金を交付。 H27:ハーベスタ・フォワーダ各1台2,624千円 H28:フォワーダ2台1,944千円 H29:ハーベスタ1台1,543千円</p>
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】森のエネルギー推進事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>森林資源の有効活用を図るため、薪ストーブ等を導入する個人に対し補助金を交付。</p> <p>①個人向けペレットストーブ補助 H27:5台 H28:3台 H29:3台 ②個人向け薪ストーブ購入補助 H27:17台 H28:19台 H29:21台</p>

施策名	1-⑤ 多様な産業の集積促進						
基本方向	企業が進出する際のインセンティブとなる施策を拡充するとともに、産業界や近隣市町村との連携による企業誘致を推進します。						
重要業績評価指標 (KPI)	企業立地件数			当初値 (件)	0 (H26)	目標値 (件)	5 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		0	0	1	-	-	A
	上記企業立地に伴う雇用者の純増数			当初値 (人)	0 (H26)	目標値 (人)	50 (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
0		0	100	-	-	S	
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	<ul style="list-style-type: none"> 企業の受皿となる産業用地等は、丸子地域の箱畳工業団地の造成に着手し、企業誘致の推進を図っている。加えて、企業訪問でのヒアリングを通じ、助成制度の周知などきめ細かな対応をすることで、助成制度の活用や増設への設備投資を図ることができた。 各種展示会へ出展し、域内の企業情報等を発信するとともに、首都圏の産業支援機関等とのネットワークを幅広く構築できた。 				
今後の 取組方針	引き続き、金融機関、産業界及び近隣市町村との連携による企業誘致等を推進するため、首都圏等で開催する企業誘致関連の展示会等で、域内の魅力を広く情報発信するとともに、民有地への設備投資に対する助成制度の充実を図る。						
主な取組①	【事業名】 定住自立圏連携事業 【事業概要】 定住自立圏域の空き地・空き事務所情報の一元化等情報共有と、圏域共同による企業誘致を推進するため、各種展示会出展や人材確保・育成事業等を推進する。 展示会 (H28:1回、H29:1回)、人材確保事業 (H28:5回、H29:6回)、人材育成事業 (H28:8回、H29:26回) 等を実施						
主な取組②	【事業名】 民有地への設備投資に対する市助成制度の創設 【事業概要】 民有地を取得し、工場等を設置する際の経費に対して助成を実施 (H28:1件、H29:0件)						
主な取組③	【事業名】 金融機関や産業界と連携した人脈や企業ネットワークを生かした企業誘致の推進 【事業概要】 県東京事務所、県内・首都圏等金融機関及び他支援機関等と連携した事業所訪問を積極的に実施。(長野県東京事務所に職員を1名派遣。企業訪問件数:420件)						
主な取組④	【事業名】 民間用地、空き事務所情報一元化による企業誘致 【事業概要】 宅建協会、金融機関からの空き用地・事務所等情報を一元化し、県や企業からの照会に対して迅速な対応を実施。(宅建協会からの情報を整理・ストックし、情報提供を実施。)						

施策名	2-① 結婚につながる出会いの応援							
基本方向	結婚を希望する若者や保護者へのサポート体制を構築するとともに、結婚を希望する若者を増やす取組みを推進します。							
重要業績評価指標 (KPI)	団体が取り扱う成婚者数				当初値 (組)	6 (H26)	目標値 (組)	30 (H31)
	実績値 (組)	H27 10	H28 12	H29 5	H30 -	H31 -	進捗評価 C	
	結婚希望者登録者数 (累計)				当初値 (人)	1,100 (H26)	目標値 (人)	3,000 (H31)
	実績値 (人)	H27 756	H28 1,552	H29 2,391	H30 -	H31 -	進捗評価 A	
	<参考 KPI> 婚姻数 (暦年)				当初値 (件)	741 (H26)	目標値 (件)	-
	実績値 (件)	H27 754	H28 730	H29 733	H30 -	H31 -	進捗評価 (B)	
	施策 中間評価	B	評価根拠/ 現状分析	市及び実行委員会主催の婚活イベント等には、定員を大幅に上回る応募があるなど機運の醸成に一定程度の成果が見られた。団体が取り扱う結婚希望者登録者数は順調に増加傾向にある一方、成婚者数は伸び悩んでいる。				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き結婚希望者同士が集う場づくりなど、市が主体となって結婚機運の醸成に努めるとともに、何らかの理由で結婚に不安等をおぼえる方々の意見などを聴取しつつ、不安を取り除くための新たな結婚支援策の検討を進める。 また、近隣市町村でも同様の課題に直面しており、定住自立圏等で協働する事業の検討を進める。 							
主な取組①	<p>【事業名】上田市縁結びプロジェクト (少子化対策重点推進事業)</p> <p>【事業概要】</p> <p>市と上田市結婚支援ネットワーク実行委員会 (事務局：上田市) が主体となり、未婚者向けセミナーや交流会、未婚者の親向けセミナー、相談員のスキルアップセミナーを実施。</p> <p><未婚者向けセミナー・交流会></p> <p>(H27：全2回、累計 男性37人・女性30人 カップリング3組)</p> <p>(H28：全3回、累計 男性42人・女性17人 カップリング3組)</p> <p>(H29：全6回、累計 男性延べ151人・女性延べ103人 カップリング12組)</p> <p>(H30：全1回、男性28人・女性27人、カップリング8組)</p> <p><親向けセミナー> (年1回) (H27:32人 H28:14人 H29:28人 H30:37人)</p> <p><相談員向けセミナー> (年1回) (H27:16人 H28:14人 H29:14人 H30:6人)</p>							
主な取組②	<p>【事業名】企業版縁結びプロジェクト (少子化対策重点推進事業)</p> <p>【事業概要】</p> <p>市と上田市結婚支援ネットワーク実行委員会 (事務局：上田市) が主体となり、企業の若者の人材育成や企業における若者の結婚に向けた意識の醸成を図るために、企業担当者向けセミナーを実施。(H27：1回、18人 H28：1回、8人)</p>							

<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】上田市結婚支援事業（少子化対策重点推進事業）</p> <p>【事業概要】</p> <p>人口減少問題の対策として取り組む結婚支援事業において、現状と結婚支援策について企業及び市民双方の要望を把握し今後の結婚支援策の検討材料とするためにアンケートを実施。</p> <p>（H29 実施 市内事業所 200 社 市内個人男女各 500 人 合計 1,000 人 有効回答 事業所 88 事業所（44%） 個人 300 人（30%）</p>
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】結婚新生活支援事業（少子化対策重点推進事業）</p> <p>【事業概要】</p> <p>結婚を機に市内に新居を構える世帯に対し、新居への引越し費用や家賃等に係る費用の一部を支援。（H28：10 件、上限 18 万円 H29：9 件、上限 24 万円）</p>

施策名	2-② きめ細やかな出産・子育て支援推進						
基本方向	妊娠期からのきめ細やかな子育て支援や地域ぐるみの子育て充実に取組み、安心して子どもを産み育てられる環境を整えます。						
重要業績評価指標 (KPI)	出生数における第3子以上の占める割合			当初値 (%)	17.3% (H24)	目標値 (%)	増加 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		18.6	-	-	-	-	A
	一時預かり保育実施園箇所数			当初値 (園)	17 (H25)	目標値 (園)	19 (H31)
実績値 (園)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	17	19	20	20	-	A	
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健コーディネーターと子育て支援コーディネーターが連携した『子育て世代包括支援センター』を機能的に運用し、また、安心安全な妊娠・出産体制の構築や全出生児（未熟児を含めた乳児）を対象とした訪問相談、子ども（中学3年生まで）の医療費無料化、保育、病児・病後児保育、放課後児童対策等の充実を通じ、妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援を行うことができている。 ・要保護児童対策協議会など、関係機関が連携した子どもへの虐待対応の強化、発達相談センターにおける、子どもの発達に関して不安のある保護者からの相談対応などにより、子どもへの虐待防止や保護者の育児不安の軽減が図られている。 ・多子世帯の経済的負担の軽減策として、第2子、3子の保育料の軽減策を市独自に行うなど拡充を図っている。 ・ワークライフバランスの実現のため、育児休業の取得促進に向けた企業への働きかけを行うとともに、父親のための料理講座などを実施し、制度の普及・啓発に努めている。 ・親子が気軽に集まり、相談や交流ができる施設として、子育て支援センターとひろば（市内13か所）を開所。子育てボランティアや子育てサポーター等の活躍により、子育て中の保護者の孤立感や不安感、子育ての負担の軽減につながっている。 ・公園施設の長寿命化計画に基づき、遊具の整備などを行い、子どもたちが安心して安全に公園を利用することができている。 				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援を行うとともに、支援から漏れる（子どもへの虐待、子育ての孤立化など）ことのないよう、引き続き関係者が連携した支援を行っていく。 ・幼児教育・保育の無償化を控え、多様な保育ニーズへの対応や国が示す「新・放課後子ども総合プラン」に基づく放課後児童対策など、保護者の就労形態等に応じた子育て支援サービスの充実を図っていく。 						

<p>主な取組①</p>	<p>【事業名】子育て世代包括支援センター 【事業概要】 子育て支援コーディネーターと母子保健コーディネーターが連携し、子育て世代包括支援センターとして機能的な運用により妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援を行う。</p>
<p>主な取組②</p>	<p>【事業名】信州上田医療センターとの連携（上田市立産婦人科病院） 【事業概要】 医療センターへの患者紹介、搬送、高度医療機器検査委託、小児回診医師派遣等の医療連携により安全で安心な医療体制を構築する。 <ハイリスク妊婦等紹介> H27：50件、H28：35件、H29：90件 <母体搬送> H27：7件、H28：13件、H29：9件 <検査依頼> H27：114件、H28：106件、H29：134件 <小児回診> H27：107回、H28：92件、H29：134件</p>
<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】乳児家庭全戸訪問事業 【事業概要】 保健師・助産師等が、出産された産婦の家庭に訪問し、全出生児（未熟児を含めた乳児）を対象に発育・育児、産褥等の相談を行う。 <訪問家庭数> H27：1,149件、H28：1,070件、H29：1,076件</p>
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】保育サービスの提供 【事業概要】 保護者の保育ニーズの多様化に対応した保育サービスの充実を図る。 <1号認定3～5歳：教育> H27:1,258人、H28：1,156人、H29：1,155人 <2号認定3～5歳：保育> H27:2,694人、H28：2,737人、H29：2,675人 <3号認定0～2歳> H27:1,271人、H28：1,337人、H29：1,362人 <延長・休日保育> H27:30,224人、H28：31,415人、H29：29,823人 <一時預かり保育：幼稚園> H27:41,422人、H28：45,589人、H29：35,806人 <一時預かり保育：幼稚園以外> H27:7,335人、H28：6,868人、H29：6,541人 <病児病後児施設利用者> H27:502人、H28：567人、H29：622人</p>
<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】放課後児童対策事業 【事業概要】 子育てと仕事の両立を支援するため、児童館・児童センター、放課後児童クラブといった放課後児童対策施設の計画的な整備と運営の充実を図る。 <放課後児童クラブ利用者> H27：1,054人、H28：1,067人、H29：1,165人</p>
<p>主な取組⑥</p>	<p>【事業名】地域子育て支援拠点事業 【事業概要】 子育て親子が自由に遊ぶことができるとともに、相互交流、子育て情報、相談ができる子育て支援センター、子育てひろばを開所している。 <子育て支援センター・ひろば利用者> H27：94,135人、H28：88,496人、H29：89,447人</p>

施策名	2-③ 未来に繋がる特色ある教育の推進						
基本方向	地域の教育力を生かす取組の充実や大学等との連携による新たな教育システムづくりに挑戦し、子どもたちの未来に繋がる教育環境を創ります。						
重要業績評価指標 (KPI)	特色ある学校教育の取組みについての市民満足度 (市民アンケート調査)			当初値 (%)	20.5 (H26)	目標値 (%)	25 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	-	-	-	-	-
	地域に開かれた学校づくりに対する市民満足度 (市民アンケート調査)			当初値 (%)	32.2 (H26)	目標値 (%)	50 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	-	-	-	-	-
	<参考 KPI> 上田市立美術館こども向け体験イベント参加者数			当初値 (人)	- (H26)	目標値 (人)	- (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		1,475	1,571	2,123	-	-	(A)
	<参考 KPI> まちなかキャンパスうえだ利用者数			当初値 (人)	- (H26)	目標値 (人)	- (H31)
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	-	3,300	5,056	-	-	(A)	
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・サントミュージゼでは、市民や子どもたちが文化・芸術を身近に感じてもらえるよう、アートに触れる機会の増加を図るとともに、様々なアウトリーチプログラムを継続実施した。 ・また、学力向上のため小・中学校に大型モニターやタブレットパソコン等 ICT 機器の整備を進めた。全小中学校で「信州型コミュニティスクール」が設置され、地域の方がクラブ活動や地域学習等に積極的に参加・協力する「地域とともにある学校づくり」の取組みが進展した。 ・長野大学の公立化をきっかけとして中心市街地に開設したまちなかキャンパスうえだでは、市内 4 大学による市民向け講座数、利用者数ともに増加。まちなかのにぎわい創出にも寄与。 ・一方で、幼保小中高大（特に高大）連携や、長野大学の公立化後のあり方（魅力ある大学）検討が進んでいない点が課題。 ・アンケート調査未実施のため指標の実績値は得られていないが、周辺自治体にはない文化施設や高等教育機関などによる一定の取組があることから A 評価とした。 				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きサントミュージゼの多様なプログラムを通じて参加・体験機会の増進を図り、子どもたちの創造力・創作意欲を育む事業を実施していく。 ・小中学校の ICT 環境整備を進めるとともに、学力向上のための活用方法を検討する。 ・実績のある幼保小中間の連携に加え、長野大学を核として各高等教育機関の持つ専門性を校種間で活かす取り組みや、共通テーマを設けて相互に学び合える環境の構築を図る。 						

<p>主な取組①</p>	<p>【事業名：サントミュージゼ（市立美術館）の育成・アウトリーチ事業】</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高校生が創る「実験的演劇工房」（H26～） 市内各高校演劇班とプロの演出家による短期演劇制作・公演 ○芸術家ふれあい事業（H26～） 小学校に出向きクラスコンサートを実施（市内全小学校 5 年生対象）、ワンコインコンサート（9 公民館） ○マチ×マチフェスティバル（H28～） まちなかでのコンサート、美術工芸展示、ダンスなどのフェスティバルの実施 ○アウトリーチ事業：作家等による特別授業（H29：2 校） ○子どもアトリエ事業 幼稚園、保育園、小学校受け入れ（H29：32 回 22 園、2 校） ・えのぐであそぼう、アトリエでつくろうなどの体験講座（H29：34 回） ・子どもは天才講座や夏休み美術教室など連続講座（H29：28 回）
<p>主な取組②</p>	<p>【事業名：まちなかキャンパス運営事業】</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 7 月に市内中心市街地の空き店舗を活用した「まちなかキャンパスうえだ」を開設。事業運営を公立大学法人長野大学に委託。 ・市内 4 大学等が連携し、学生が商店街の課題解決に取り組むゼミや、社会人等を対象とした大学による市民講座の開催、大学の情報発信など、地域に開かれた大学とし、まちなかににぎわいを創出する事業を実施 <p style="padding-left: 40px;">市民向け講座 H28：16 講座 H29：23 講座</p> <p style="padding-left: 40px;">利用者総数 H28：3,300 人 H29：5,056 人</p>
<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】小中学校の I C T 機器導入</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 年度市町村合併特例交付金を活用し整備（44,800,000 円） ・特別支援教室へタブレットパソコンを整備（117 台） 児童生徒へ個々の対応が可能となり、学習意欲や理解度などが高まった。 ・小中学校の普通教室に大型モニター、小学校の普通教室に教材提示装置を整備（大型モニター258 台、指導用デジタル教科書 32 個、教材提示装置 60 台） デジタル教科書や個人の作品などを画面に写し、授業への興味や関心、集中力を高め、話し合い活動にも活用できアクティブラーニングの実践や学力向上が期待できる。
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】信州型コミュニティスクール</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上田市では平成 28 年度末に全ての小中学校での設置が完了。多くの小中学校のクラブ活動や地域学習等でボランティアが講師等として参加・協力。 ・学校教育課、生涯学習・文化財課、公民館職員で構成する「学校支援プロジェクト会議」を立ち上げ、学校支援ボランティアハンドブック作成やボランティアの連携や育成のための研修会等（H29：5 回）、視察（H29：1 回）、交流会（H29：2 回）を実施。

施策名	3-① 地域資源を生かした知名度アップと交流促進						
基本方向	おもてなしで迎える観光の振興によって交流人口を拡大し、当市を何度も訪れていただくファンづくりと知名度アップを図ります。						
重要業績評価指標 (KPI)	観光地延べ利用者数 出典：長野県観光地利用者統計			当初値 (万人)	475 (H26)	目標値 (万人)	580 (H31)
	実績値 (万人)	H27 545	H28 721	H29 504	H30 -	H31 -	進捗評価 A
	外国人宿泊者数 出典：長野県観光地利用者統計			当初値 (人)	8,978 (H26)	目標値 (人)	10,000 (H31)
	実績値 (人)	H27 8,048	H28 8,227	H29 12,303	H30 -	H31 -	進捗評価 S
	観光消費額 出典：長野県観光地利用者統計			当初値 (億円)	128 (H26)	目標値 (億円)	160 (H31)
	実績値 (億円)	H27 121	H28 150	H29 113	H30 -	H31 -	進捗評価 B
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	観光地延べ利用者数は、「真田丸」放送決定となった平成 26 年から増加傾向となり、放送年の平成 28 年をピークに増加し、平成 29 年は反動減が懸念されたが 500 万人台と、放送前年に比べ大幅な減少にはならなかった。また外国人観光客数は、東京オリンピック・パラリンピックを見据えた国の施策強化の中で、当市としても、平成 29 年度の信州上田台湾プロモーション事業を契機にインバウンド事業を推進し、目標値(平成 31 年・10,000 人)を既に上回っている。				
今後の 取組方針	当市が有する様々な観光資源を有効的に活用し、滞在時間を長くし滞在型観光へ向けた「稼ぐ観光」への転換を図ることとし、このような中で昨年、一般社団法人 信州上田観光協会を設立し、観光振興の中心的な役割を担う組織として、観光関連団体や民間事業者といった関係者との繋がりを軸にしながら観光戦略に取組み、市との連携も図ることとする。今後、行政のみならず様々な関係者と一体となった上で、着実な実行を進めていくため、信州上田観光協会の取組みを中心に位置付け、DMO に関わる調査研究についても、今後の展望を見据えながら検討する。						
主な取組①	<p>【事業名】市内の多様な観光資源・要素を連携させ、トータルマーケティングによる誘客促進のため、観光まちづくりプラットフォーム（観光 DMO）の体制づくりと取組を推進</p> <p>【事業概要】</p> <p>◎(一社)信州上田観光協会の設立。(設立日：平成 29 年 4 月 3 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連団体や民間事業者との連携した観光誘客事業の推進や DMO の調査研究。 						
主な取組②	<p>【事業名】NHK 大河ドラマ「真田丸」放送を生かし、真田氏ゆかりの自治体との広域観光連携を推進するとともに、北陸新幹線沿線地域間連携による新たな広域観光ルート形成を促進</p> <p>【事業概要】</p> <p>◎真田街道推進機構 連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 真田氏ゆかりの地スタンプラリー(実施期間:H27.9.1~H28.12.31 日) 抽選応募 2,361 通、スタンプ押印 7,347 個 北海道から九州までの参加を得た。 <p>◎北陸新幹線停車駅都市観光推進会議 連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度 上田市が幹事都市となり、当市でサミットを開催。 平成 28 年度 沿線都市スタンプラリーを実施。 結果(実施期間:H28.11.1~H29.3.31) 抽選応募 1,944 通、スタンプ押印 4,784 個 平成 29 年度 台湾をターゲットとした繁体字の観光パンフレットを製作。 平成 30 年度 台湾をターゲットとした SNS を活用した観光情報 PR 事業を実施。 						

<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】外国人観光客の誘客促進に向け、HP およびパンフレットの多言語化など観光情報を充実するとともに、外国語案内看板や公衆無線 LAN 整備などによる受入環境を充実</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎平成 27 年度 市内宿泊施設等に対する無線 LAN 環境整備経費補助事業 30 箇所(上田 1、別所 7、鹿教湯 3、菅平 18、武石 1)。 ◎多言語観光パンフレット(英・韓・繁・簡・タイ)製作、外国語 H P、SNS 運営。 ◎海外観光プロモーション事業の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度 高雄市観光 PR 展、台湾メディア招聘、ハトナム・ホーチン旅行博、タイ・バンコク旅行博、 ・平成 29 年度 信州上田台湾プロモーション事業、台北旅行博 ・平成 30 年度 タイ・バンコク旅行博、台湾台北旅行博、シガポール日本アニメイベント ◎インバウンド研修会等実施(H29.7 月、H30.3 月)
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】フィルムツーリズム、トレイルラン等スポーツツーリズム、農村でのグリーンツーリズム、温泉を生かしたヘルスツーリズムなど多様な観光資源を生かした滞在交流型観光地づくりを推進</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロケ支援の実施。市内ロケ地を紹介したロケ地マップを製作し、観光客の周遊を促す。 ・劇場アニメ映画「サマーウォーズ」が、2019 年公開 10 周年を契機に、その前年はブレ企画として、観光会館での特別展示やグッズ販売等を実施。 ・菅平高原におけるサニアパークをはじめ平成 30 年 9 月に完成した上田市菅平高原アリーナの有効活用。 ・稲倉棚田保全委員会による農作業体験学習プログラム等、稲倉の棚田のイベント PR や観光パンフレットでの紹介、また「旅の観光タクシー」プランでコース組入れ。 ・鹿教湯温泉での地元関係団体による「鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクト」の活動。また現代のライフスタイルに合った温泉地を推進する環境省「チーム新・湯治」に加入し、誘客を促進。
<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】首都圏向けへの銀座 NAGANO を活用した情報発信や、金沢市、上越市と連携した関西圏、北陸圏などでの観光宣伝キャンペーンを促進</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎銀座 NAGANO (武将隊演武、郷土料理 P R イベント等) ◎金沢市と上越市との連携 (各市イベント(金沢百万石祭り、上越謙信公祭、上田城千本桜まつり等)での相互出展、誘客イベント、観光パンフレット、SNS 等による誘客事業)
<p>主な取組⑥</p>	<p>【事業名】シティプロモーションの推進</p> <p>【事業概要】</p> <p>上田市の多様な魅力を様々な機会や情報発信媒体等を活用し市内外に向け戦略的、効果的に情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎各種メディアを複合的に活用した情報発信事業の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏をターゲットエリアとして、テレビを活用した継続的な番組放送や特集番組の放送とともに、首都圏向け情報誌への特集記事掲載による魅力発信の実施。 ・また、ICT を活用し、シティプロモーション用 Web サイトの公開、Facebook ページの運用、ユーチューブへの P R 動画投稿による魅力発信の実施。 ・地域コミュニティ FM を活用した市オリジナル番組放送による市外へ向けた魅力発信の実施。 ◎広域連携による情報発信事業の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・東日本連携・創生フォーラムへの参画 (H29) を契機として、特に、さいたま市との連携による農産物販売や観光情報 P R による魅力発信の実施。

施策名	3-② 移住相談、受入体制のワンストップ化促進							
基本方向	移住希望者の様々な相談やニーズに対応するワンストップの窓口を充実し、市民協働の体制でスムーズな移住につなげます。							
重要業績評価指標 (KPI)	移住相談件数				当初値 (件)	51 (H26)	目標値 (件)	100 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30		H31	進捗評価
		202	289	418	-		-	S
	空き家情報バンク成約件数 (H28~H31 の累計)				当初値 (件)	- (H26)	目標値 (件)	48 (H31)
	実績値 (件)	H27	H28	H29	H30		H31	進捗評価
		-	20	49	-		-	S
	<参考 KPI> 移住希望者と地元企業の雇用マッチング成約人数				当初値 (人)	-	目標値 (人)	-
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30		H31	進捗評価	
	-	14	13	-		-	(A)	
施策 中間評価	S	評価根拠/ 現状分析	移住相談件数及び空き家バンクの成約件数ともに年々増加傾向にあり、行政支援による移住者数は県内でもトップクラスとなっている。(H29 県外移住者数 96 人は県内最多)					
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き移住相談の機会を確保し、移住先として上田市が候補となるよう、上田市の魅力や生活における情報をきめ細かに提供していく。 また、近隣市町村でも同様の課題に直面しており、定住自立圏等で協働する事業の検討を進める。 							
主な取組①	<p>【事業名】移住相談会への参加、開催 (定住人口増加策推進事業)</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三大都市圏において、県等が主催する相談会に参加又は市が独自に開催。(H27:13 回 91 組、H28:15 回 113 組、H29:31 回 211 組) 							
主な取組②	<p>【事業名】空き家バンク利用者引越費用補助金 (定住人口増加策推進事業費)</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家バンク物件の購入者の引越費用の 2 分の 1 を補助。上限 10 万円。(平成 30 年 7 月開始) 							
主な取組③	<p>【事業名】空き家バンク運営安定化事業 (定住人口増加策推進事業)</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不動産業界関係機関へ業務の一部を委託し、専門相談員を配置。(平成 30 年 10 月開始) 							
主な取組④ 【再掲 1-②】	<p>【事業名】U I J ターン就職支援事業</p> <p>【事業概要】</p> <p>U I J ターン希望者の就業相談に対し、民間やハローワークの求人等、地域の総合的な就職情報を一体的に提供するとともに、希望者には「企業見学」として、地域企業での職場見学を通じて雇用マッチングの機会を提供し、上田市への移住を誘導した。</p>							

施策名	3-③ 移住・二地域居住を促進する施策の推進						
基本方向	市内住宅物件の見学や生活を体験するメニュー、移住のインセンティブとなる施策を充実し、当市への移住を促進します。						
重要業績評価指標 (KPI)	移住・定住者数 (空き家バンク利用による人数: H28~H31 累計)			当初値 (人)	- (H26)	目標値 (人)	80 (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	45	114	-	-	S
	民間事業者による居住・就業体験、就農体験プログラム等への参加者数			当初値 (人)	- (H26)	目標値 (人)	50 (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		5	1	1	-	-	B
<参考 KPI> 移住体験ツアー参加人数			当初値 (人)	-	目標値 (人)	-	
実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	-	27	36	-	-	(A)	
施策 中間評価	A	評価根拠/ 現状分析	行政支援による移住者数は県内でもトップクラスとなっている。(H29 県外移住者数 96 人は県内最多)				
今後の 取組方針	引き続き移住相談の機会を確保し、移住先として上田市が候補となるよう、上田市の魅力や生活における情報をきめ細かに提供していく。						
主な取組①	【事業名】移住体験ツアーの開催 (定住人口増加策推進事業) 【事業概要】 移住希望者を対象に、上田市の魅力、普段の生活風景などを体験、見学してもらうことで、移住後の生活のイメージを具体化してもらうツアーを開催。(H28:3 回開催。参加者 12 組 27 人。H29:3 回開催。参加者 18 組 36 人)						
主な取組② 【再掲 3-②】	【事業名】空き家バンク利用者引越費用補助金 (定住人口増加策推進事業費) 【事業概要】 ・空き家バンク物件の購入者の引越費用の 2 分の 1 を補助。上限 10 万円。 (平成 30 年 7 月開始)						
主な取組③ 【再掲 3-②】	【事業名】空き家バンク運営安定化事業 (定住人口増加策推進事業) 【事業概要】 ・不動産業界関係機関へ業務の一部を委託し、専門相談員を配置。 (平成 30 年 10 月開始)						
主な取組④	【事業名】移住者交流会 【事業概要】 上田市への移住者が集い、移住後の生活等について情報交換を行うことで移住者同士のコミュニティの拡大を図るとともに、移住者からの意見を今後の移住施策の参考にする。 (参加者 24 組 46 名)						

施策名	4-① 安心の医療サービスが受けられる環境づくり							
基本方向	医療従事者の確保と救急医療体制の整備により、医療体制の充実を図ることで、安心して医療が受けられる環境づくりを進めます。							
重要業績評価指標 (KPI)	地域医療体制に対する市民満足度				当初値 (%)	31.2 (H26)	目標値 (%)	50 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		-	-	-	-	-	-	
	上小医療圏域外への救急搬送率				当初値 (%)	13.8 (H26)	目標値 (%)	12 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		12.9	12.8	13.0	-	-	B	
	<参考 KPI> かかりつけ医がいる割合 (上小医療圏)				当初値 (%)	- (%)	目標値 (%)	-
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		-	-	72.5 (県内 10 医療圏中 2 位)	-	-	(A)	
	<参考 KPI> 「比較的軽い病気やけがは、患者の近くの診療所・病院が治療を受け持ち、比較的大きな病院は、病状が進んだ患者の治療や難しい病気の治療に専念すべきである」という考えに賛成する割合 (上小医療圏)				当初値 (%)	-	目標値 (%)	-
実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	-	-	80.4 (県内 10 医療圏中 1 位)	-	-	(A)		
施策 中間評価	B	評価根拠/ 現状分析		<p>・県が平成 29 年 2 月に行った「県民医療意識調査」によると上小医療圏は他の医療圏と比較して、かかりつけの医師がいる割合や医療機関の役割分担について理解がある割合が高く、住民の意識が高いことが類推される。</p> <p>・信州上田医療センター、病院群輪番制病院をはじめとする地域の医療機関の御尽力により、救急搬送収容人員の受入人数は増加傾向であるが、救急搬送される人数も増加傾向であるため、実績値に大きな変化が見られない。</p>				
今後の 取組方針	<p>・医師、看護師等の医療従事者の負担を減らすため、かかりつけ医の重要性を周知するとともに、通常診療時間内の受診を促し、夜間、深夜等の不要不急な受診を抑制するよう取り組む。</p> <p>・医療に関する情報 (診察が受けられる医療機関名、診療科、時間等) を市民が得やすくするための環境作りに取り組む。</p>							
主な取組①	<p>【事業名】病院群輪番制病院</p> <p>【事業概要】</p> <p>二次救急医療を担う病院群輪番制病院に、深夜等 (午後 6 時から翌日午前 8 時まで) の初期救急医療も担っていただいている。</p> <p>(延べ実施回数) H27:568 回、H28:566 回、H29:577 回</p>							

<p>主な取組②</p>	<p>【事業名】 休日救急医（在宅当番医）</p> <p>【事業概要】</p> <p>日曜日、祝日等に医療機関に当番で開院していただいている。（【実施日数 実施医療機関数 実施回数】 H27：73日 71医療機関 493回、H28：73日 73医療機関 491回、H29：74日 72医療機関 502回）</p>
<p>主な取組③</p>	<p>【事業名】 休日歯科救急センター</p> <p>【事業概要】</p> <p>日曜日、祝日等に休日歯科救急センターで歯科診療をしていただいている。</p> <p>（【実施日数】 H27：74日、H28：75日、H29：75日）</p>
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】 上田市内科・小児科初期救急センター</p> <p>【事業概要】</p> <p>毎日（8月14日から16日まで、12月30日から翌年1月3日までを除く。）、午後8時から11時まで診療を実施している。</p> <p>（【診療日数】 H27：358日、H28：357日、H29：357日）</p>
<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】 地域医療体制を強化するための医師確保事業（上小医療圏地域医療再生計画の継続事業の一つ）</p> <p>【事業概要】</p> <p>上田地域広域連合ふるさと基金を原資に、医師を派遣する大学に対する研究費や、信州上田医療センターに勤務する初期研修医の養成費（給与等）の助成を行った。（信州上田医療センターの医師数 H27:56人、H28:61人、H29:61人、H30:67人）</p>

施策名	4-② 健康寿命を延伸する施策の推進						
基本方向	誰もがライフスタイルに合った幸福を感じ、いきいきと健康に暮らせるための健康づくり事業を推進し、健康寿命延伸を目指します。						
重要業績評価指標 (KPI)	健康で長生きし豊かな人生が送れる環境が整っていると感じる市民の割合			当初値 (%)	37.1 (H26)	目標値 (%)	47 (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	-	-	-	-	-
	国民健康保険の特定健康診査受診者中の糖尿病予備群の割合			当初値 (%)	34.3 (H25)	目標値 (%)	25 (H31)
実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
	37.0	37.7	38.1	-	-	C	
施策 中間評価	B	評価根拠/ 現状分析	特定健診の保健指導基準該当者の約8割の方に保健指導を実施している。しかし、上田市はメタボリックシンドロームと血糖高値者が県平均より多い傾向であることから、受診率が向上した場合は糖尿病予備群の割合が増加するものと推測している。市では重点的に保健指導事業に取り組んでいるが、糖尿病予備群の減少に向けては、中・長期的な取組が必要である。				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関とも連携しながら、特定保健指導及び糖尿病性腎症重症化予防事業に取り組み、引き続き重症化予防に向けた対策に努めていく。 ・市民の健康への意識や関心を高め、特定健診や各種検診の受診率の向上、健康づくり実践者を増やすことが課題となっていることから、「健康づくりチャレンジポイント制度事業」を柱とした様々な健康施策を関係団体や民間との連携も含めた中で庁内横断的に、プロジェクト的な発想を持って取り組んでいく。 						
主な取組①	<p>【事業名】 特定保健指導</p> <p>【事業概要】 特定健診の結果から生活習慣病のリスクが高く、生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して保健師、管理栄養士などによる保健指導を実施している。</p> <p>保健指導率 H27:73.6%、H28:81.8%、H29:76.6%</p>						
主な取組②	<p>【事業名】 糖尿病性腎症重症化予防</p> <p>【事業概要】 糖尿病が重症化するリスクの高い医療機関未受診者、受診中断者を医療に結びつけるとともに、糖尿病性腎症等で通院する患者のうち重症化するリスクの高い者に対して医療機関と連携して保健指導を実施する。</p>						
主な取組③	<p>【事業名】 健康づくりチャレンジポイント制度事業 (H27年6月～)</p> <p>【事業概要】 特定健診や各種検診、ウォーキング等健康づくり事業に参加した市民に、公共施設の無料利用や民間スポーツ施設での特典利用又は社会貢献(学校・保育園へのスポーツ関連用品寄附)と交換できるポイントを付与する健康無関心層へのアプローチ事業。</p> <p>新規参加者：H27:3,043人、H28:975人、H29:1,067人 (H30.10末累計5,978人)</p>						
主な取組④	<p>【事業名】 健幸ウォーキング事業 (H27～)</p> <p>【事業概要】 「歩くこと」をキーワードとしたウォーキング事業を自治会や各種団体と連携し、市内全域で展開する。</p> <p>参加者数：H27：993人、H28：1,148人、H29：1,424人、H30：640人 (10月末)</p>						

<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】 インターバル速歩実践講座事業（H17～） 【事業概要】 信州大学医学部と連携した中高年からの筋力・体力向上を目的とした科学的根拠に基づくウォーキング事業。 ・実践講座：H27：63人、H28：47人、H29：35人、H30：38人（10月末） ・継続支援：H27：54人、H28：66人、H29：37人、H30：25人（10月末） ・体験講習会：H27：137人、H28：79人、H29：65人</p>
<p>主な取組⑥</p>	<p>【事業名】 子どもの健康づくり支援事業（H28～） 【事業概要】 子どもの身体活動量低下による筋力・運動能力等の低下を防ぎ、子どもの頃から体を動かす習慣づくりのための保育園運動プロジェクト「チャレンジキッズ」の実施。 運動指導園児数：H28：延べ864人、H29：延べ930人、H30：1,007人（10月末）</p>
<p>主な取組⑦</p>	<p>【事業名】 あたま・からだ元気体操事業（H28～） 【事業概要】 市民の運動習慣及び高齢者の外出促進を目的として、6月から10月までの毎週土曜日、午前6時30分から午前7時まで、市内7会場で実施。 参加者数：H28：延べ4,133人、H29：延べ6,141人、H30：延べ6,624人</p>
<p>主な取組⑧</p>	<p>【事業名】 健康づくり応援サイト・アプリ構築事業（H30） 【事業概要】 市民のだれもが手軽に健康情報を目にすることができるよう、健康情報の一元化を図り、市HPの該当ページを見やすく、使いやすいWebサイトにリニューアルする。特に、課題となっている働き盛り世代と若い世代の健康への関心を高めるため、普及率の高いスマホで利用効果の高い専用のアプリも同時に構築し、スマホによるウォーキングやSNSによる健康情報の拡散化を図る。（今年度中にシステム構築）</p>
<p>主な取組⑨</p>	<p>【事業名】 鹿教湯温泉「健康の里」推進事業 【事業概要】 国民保養温泉地として指定されている鹿教湯温泉を「健康の里」として位置づけ、地元観光協会や旅館組合等と連携し健康づくりのための取組を行うことにより、滞在型温泉地鹿教湯温泉の活性化と誘客の推進を図る。 ◆環境省、日本理学療法士協会、上田市の首長3者協定による「温泉を活かした健康づくり」による取組 ・「ものわすれドックと予防プログラム」の実施 温泉地を活用した宿泊型介護予防・認知症予防事業 参加者数：H28：6人、H29：8人 ・「温泉を活かした新しい健康づくりフォーラム」の開催 参加者数：H28：110人 ◆環境省による「チーム新・湯治」への加入 現代のライフスタイルに合った温泉地での過ごし方を推進する「チーム新・湯治」へ加入し、楽しく、元気になる温泉地を目指す。 ◆「鹿教湯温泉ポール de ウォーキングフェスタ」の開催 鹿教湯温泉を「ポールを使ったウォーキング」のメッカにすることを目的とし、住民及び湯治に訪れる観光客に健康増進の機会を提供する。 参加者数：H27：126人、H28：81人、H29：170人 ◆水中ポールウォーキングの実施 水中で体の負担が少なく心肺機能の強化につながる「水中ポールウォーキング」を取り入れた健康づくりに着手している。 参加者数 H29：113人</p>

施策名	4-③ 暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充							
基本方向	市民が通勤・通学や日常生活に必要な移動ができるよう、また観光客にも利用しやすいよう、公共交通の活性化を図ります。							
重要業績評価指標 (KPI)	道路や交通機関などの交通網が利用しやすいと感じる市民の割合 (市民アンケート未実施)				当初値 (%)	26% (H26)	目標値 (%)	36% (H31)
	実績値 (%)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		-	-	-	-	-	-	
	市内路線バスと別所線の輸送人員数				当初値 (人)	241万人 (H26)	目標値 (人)	267万人 (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		245万人	249万人	247万人	-	-	B	
	<参考 KPI> 路線全線が運賃低減バス実証運行対象区域となる路線における運賃低減前後の輸送人員増加率				当初値 (倍)	1.276 (H26)	目標値 (倍)	-
	実績値 (倍)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価	
		1.335	1.359	1.351	-	-	(B)	
	別所線の輸送人員数				当初値 (千人)	1,226 (H26)	目標値 (千人)	1,200 (H31)
実績値 (千人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価		
	1,299	1,313	1,280	-	-	(A)		
施策 中間評価	C	評価根拠/ 現状分析	路線バスの輸送人員数は目標に至らないが、右肩下がりだったものが上昇に転じた。 別所線の輸送人員数は善光寺御開帳や大河ドラマ真田丸放送などに因り増加傾向にある。					
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスについては、運賃低減バスの実証運行を検証し、今後の運行方針を定める。 ・別所線については、国・県と協調して安全対策に対する補助を行い、輸送の安全確保に努めるとともに、住民・行政・事業者からなる別所線電車存続期成同盟会の活動を中心に、利用促進のためのイベント等を実施する。 ・近隣市町村でも同様の課題に直面しており、定住自立圏等で協働する事業の検討を進める。 							
主な取組①	【事業名】 運賃低減バス実証運行 【事業概要】 「事業者への補助から利用者への補助」に発想を転換し、市内路線バスの上限を 300 円または 500 円とし、利用者の増を図る。							
主な取組②	【事業名】 別所線運行協定 【事業概要】 安全性確保のための、国の安全性緊急評価の指摘に準じた安全対策等(設備投資・修繕)に対する市独自の補助を行うとともに、利用促進のためのイベントを実施する。							

施策名	4-④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進						
基本方向	個性とまとまりを大切にしながら、地域自ら地域の抱える課題を解決できる仕組みづくりを進め、活発な地域コミュニティ活動を創出します。						
重要業績評価指標 (KPI)	自治会や各種団体などで構成される住民自治組織の設立数 (累計)			当初値 (組織)	- (H26)	目標値 (組織)	25 (H31)
	実績値 (組織)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	4	9	10	-	A
	小さな拠点づくり実施地域数 (累計)			当初値 (地区)	- (H26)	目標値 (地区)	2 (H31)
	実績値 (地区)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		-	1	1	2	-	A
施策中間評価	A	評価根拠/現状分析	平成30年度現在の設立想定数 12~15 組織に対して8地域10 組織が設立完了。※住民自治組織の設立単位を地区連 25 地域から地域協議会9 地域 (1 地域から複数の組織が設立することを含む) を基本とする方針に変更。				
今後の取組方針	未設立の地域に対して住民自治組織制度の説明会等を実施し理解と設立推進を図る。						
主な取組①	【事業名】住民自治組織支援事業 【事業概要】 設立された住民自治組織の活動費として交付金を支出 (H28: 4 組織 14,500 千円、H29: 9 組織 34,500 千円、H30 : 10 組織 39,000 千円)						
主な取組②	【事業名】地域担当職員 【事業概要】 住民自治組織の運営及び設立推進に対する人的支援として各地域に専属の職員を配置 平成30年度現在 8名配置						
主な取組③	【事業名】協働推進員 【事業概要】 市民及び地域コミュニティとの協働によるまちづくりを積極的に推進するため、各課等において職員への啓発活動や課内調整、関係他課との連携、情報共有等の役割を担う職員を配置 平成30年度 80名配置						

施策名	4-⑤ まちとまち、人と人をつなぐ広域連携促進						
基本方向	定住自立圏全体の住みやすさや魅力を生む取組みを進めるとともに、共通課題への対応に向けた広域都市間連携を推進します。						
重要業績評価指標 (KPI)	上田地域定住自立圏 取組事業数			当初値 (事業)	58 (H26)	目標値 (事業)	65 (H31)
	実績値 (事業)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
		58	60	60	-	-	B
	上田・松本都市連携による輸送人員目標			当初値 (人)	-	目標値 (人)	8,700 (H31)
	実績値 (人)	H27	H28	H29	H30	H31	進捗評価
	290	2,230	2,460	-	-	B	
施策 中間評価	B	評価根拠/ 現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI「上田地域定住自立圏取組事業数」について、当初値 58 事業 (H26) に対し現状値 60 事業 (H29) で 2 事業の増加にとどまっているが、内訳は追加 6 事業、発展的解消 3 事業、統合 1 事業である。したがって、目標値 65 事業 (H31) に達してはいないが、圏域の発展に寄与する取組を進めている。 ・KPI「上田・松本都市連携による輸送人員目標」について、上田-松本直行バスは、H28 年 2 月の運行開始以降、宣伝 PR 等により輸送人員が増加しているが、目標値 8,700 人 (H31) に対し現状値 2,460 人 (H29) であり、目標達成にはさらなる利用促進が必要である。 ・具体的施策として、主な取組①～③では、定住自立圏住民の一体感醸成に寄与するとともに移住定住に結び付けることができたが、広域都市間連携を含めてさらなる広がりを生む事業展開が課題である。 				
今後の 取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定住自立圏全体の魅力創出につながる協働事業の検討を進め、あわせて共通課題に対する広域都市間連携の検討を進める。 ・また、上田-松本直行バス運行にあたっては、運用形態等の効率化に向けた検討を継続的に行い、経費削減や利用者数向上に向け宣伝 PR 等を図っていく。 						
主な取組①	<p>【事業名】圏域内文化施設の相互利用、交流イベント開催等による芸術文化の振興</p> <p>【事業概要】</p> <p>上田市交流文化芸術センターでは、H29 年度から公民館など身近な空間でプロの演奏家との交流を行うことにより、地域住民が気軽にクラシック音楽に触れられる「地域ふれあいコンサート」を実施 (H29:4/23 長和町 30 名、6/8 青木村 70 名、12/13 立科町 80 名、H30:4/11 坂城町 50 名、6/6 嬬恋村 95 名、8/22 長和町 60 名、10/11 青木村 59 名、12/12 立科町 41 名)。</p>						

<p>主な取組②</p>	<p>【事業名】首都圏移住相談会等への合同参加による移住促進</p> <p>【事業概要】</p> <p>三大都市圏における相談会への参加（H27：6回、H28：7回、H29：12回、H30：11回予定）。H30は構成市町村が連携し一泊二日での移住体験ツアーを初実施（首都圏から5組12名参加）。</p>
<p>主な取組③</p> <p>【再掲 1-①】</p>	<p>【事業名】東信州エリアの企業ネットワーク及び産学等連携による次世代自立支援（健康・介護機器等）産業の集積化</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東信州広域連携による次世代産業の創出、人材確保・育成等の各種事業を推進。 ・産産・産学連携支援事業；開発プロジェクト（H30:1件）、マッチング会（H28:2回、H29:4回、H30:5回）、技術講演会（H28:2回、H29:2回、H30:2回）、先進企業見学会（H28:2回、H29:2回、H30:2回）、技術展示会（H28:2回、H29:2回、H30:2回）。 ・人材確保事業（H28:5回、H29:6回、H30:2回）、人材育成事業（H28:8回、H29:26回、H30:8回）。 ・広報宣伝・ネットワーク強化事業；トップセミナー（H28:2回、H29:2回、H30:2回）、エリア内産業支援機関連絡会議等を定期的実施。 ・広域発信事業（東信州 HP や LINE を活用し情報発信）。 ・その他；国研究開発補助金（ものづくり補助金申請、経済産業省「地域中核企業創出・支援事業申請」、「地域未来投資促進法事業者牽引事業計画策定支援」を随時実施）。
<p>主な取組④</p>	<p>【事業名】圏域の高原を生かした高地トレーニングエリア構想の推進</p> <p>【事業概要】</p> <p>心肺機能を高める環境として高地トレーニングが重要視され、東御市湯の丸高原と菅平高原が適地としてスポーツを通じた誘客促進も期待されている。湯の丸高原では、高地トレーニング施設整備が進められており、また小諸市では、浅間山麓スポーツ医学研究所が設立され、医学サポートや高地トレーニングへの支援が行われている。菅平高原にとっても、これらのエリアや施設との連携することが躍進に繋がる。こうした中、夏季シーズンにはトレーニング合宿が集中するため、湯の丸高原陸上施設とサニアパークの間では、利用状況等情報共有し、相互の連携を図っている。また H30.9 月完成した上田市菅平高原アリーナの更なる有効活用も考えている。</p>
<p>主な取組⑤</p>	<p>【事業名】圏域観光地連携による旅行商品造成や観光ガイドの養成を検討</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成は、信州上田観光協会「旅の観光タクシー」プランで、おもてなし武将隊と巡る周遊コースや、市内日本酒の蔵元を巡るコースなどを商品化してきている。 ・周辺自治体との連携した取組みでは、千曲川ワインバレーの旅として、東御市内のワイナリーや地ビール工場を組んだコースを実施。 ・観光ガイドの養成は、上田観光ボランティアガイドの会やイングリッシュ・ガイド・グループ活動支援として、信州上田観光協会からガイド団体の活動事業費に対する補助事業を実施。あわせてガイド利用申込者との事務処理等や、研修会のサポートを実施。

<p>主な取組⑥</p>	<p>【事業名】上田-松本間シャトルバス運行により利便性向上と地域間交流を促進</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上田-松本直行バスは、長野市、松本市、上田市の三市トライアングル連携事業の一環として、二次交通を充実させるために、新幹線停車駅を有する上田市と、空港を有する松本市の相互の市における観光交流人口拡大を目的とし、平成 27 年度(H28 年 2 月)から運行を開始。松本市から上田地域へ直通できる唯一の公共交通機関で、トライアングル連携事業の周遊観光も実現可能にでき重要な事業として位置付ける。また信州まつもと空港 FDA が好調で、札幌・福岡・大阪等の大都市からの当市への観光客流入が期待でき、さらには空港の国際化を鑑み、インバウンド効果も十分に期待できる。 <p>このような状況を踏まえ、直行バス運行にあたっては、運用形態等についての効率化に向けた検討は継続的に行い、経費削減や利用者数向上に向け宣伝 P R 等を図る。</p> <table border="1" data-bbox="336 551 1458 712"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>運行日数(日)</th> <th>運行便数(便)</th> <th>乗車人数(人)</th> <th>人数/便</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 27 年度(2~3 月)</td> <td>18</td> <td>72</td> <td>290</td> <td>4.03</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度 (通年)</td> <td>141</td> <td>564</td> <td>2,230</td> <td>3.95</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度 (通年)</td> <td>141</td> <td>564</td> <td>2,460</td> <td>4.36</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	運行日数(日)	運行便数(便)	乗車人数(人)	人数/便	平成 27 年度(2~3 月)	18	72	290	4.03	平成 28 年度 (通年)	141	564	2,230	3.95	平成 29 年度 (通年)	141	564	2,460	4.36
年 度	運行日数(日)	運行便数(便)	乗車人数(人)	人数/便																	
平成 27 年度(2~3 月)	18	72	290	4.03																	
平成 28 年度 (通年)	141	564	2,230	3.95																	
平成 29 年度 (通年)	141	564	2,460	4.36																	
<p>主な取組⑦ 【再掲 3-①】</p>	<p>【事業名】NHK 大河ドラマ「真田丸」放送を生かし、真田氏ゆかりの自治体との広域観光連携を推進するとともに、北陸新幹線沿線地域間連携による新たな広域観光ルート形成を促進</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎真田街道推進機構 連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・真田氏ゆかりの地スタンプラリー(実施期間:H27.9.1~H28.12.31 日) 抽選応募 2,361 通、スタンプ押印 7,347 個 北海道から九州までの参加を得た。 ◎北陸新幹線停車駅都市観光推進会議 連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度 上田市が幹事都市となり、当市でサミットを開催。 ・平成 28 年度 沿線都市スタンプラリーを実施。 <p>結果(実施期間:H28.11.1~H29.3.31) 抽選応募 1,944 通、スタンプ押印 4,784 個</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度 台湾をターゲットとした繁体字の観光パンフレットを製作。 ・平成 30 年度 台湾をターゲットとした SNS を活用した観光情報 P R 事業を実施。 																				
<p>主な取組⑧ 【再掲 3-①】</p>	<p>【事業名】首都圏向けへの銀座 NAGANO を活用した情報発信や、金沢市、上越市と連携した関西圏、北陸圏などでの観光宣伝キャンペーンを促進</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎銀座 NAGANO (武将隊演武、郷土料理 P R イベント等) ◎金沢市と上越市との連携 (各市イベント(金沢百万石祭り、上越謙信公祭、上田城千本桜まつり等)での相互出展、誘客イベント、観光パンフレット、SNS 等による誘客事業) 																				
<p>主な取組⑨</p>	<p>【事業名】養蚕や製糸業にゆかりのある関連施設・資源を生かした観光促進のため、県内外のシルク関連自治体及び関連事業者と連携 (信州シルクロード連携協議会など)</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当市は製糸都市として繁栄し、明治 44 年に上田蚕糸専門学校が設立され技術革新が進み信州大学繊維学部へと発展した。信越線や市内私鉄といった鉄道網の発展に影響を及ぼすなど、当時の庶民の暮らしの様々な部分でも関連性が見受けられた。 ・「信州シルクロード連携協議会」は、富岡製糸場の世界遺産登録を契機に発足した協議会(事務局：岡谷市)。県内関連市町村が地域で育ててきたシルク文化を将来へ引継ぎ、また活用することで魅力ある地域を築き、観光産業の発展に寄与しシルク関連施設等と積極的に宣伝 P R することを目的。主な活動は、協議会 H P 開設、国内外用観光パンフレットの製作、観光キャンペーン等を実施。 ・経産省による「絹のみち広域連携プロジェクト」では、関係省庁、関係自治体と連携し、「絹」に関連する地域の文化や歴史を発信し、地域や分野を超え連携して高付加価値商品を生み出し、地域経済活性化を目的とし、シンポジウム開催や観光キャンペーン等を実施。 																				

<p>主な取組⑩</p>	<p>【事業名】全国の忍者ゆかりの地で構成する「日本忍者協議会」に参画し、忍者を生かした広域観光ルートを開発</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲賀と長野県望月町(現佐久市)は奈良時代に、望月氏は優秀な馬を育て朝廷に献上する前に、滋賀県甲賀付近で休養調教が行われ、望月氏と甲賀の地は深い関係を持っていた。歴史的にも真田氏と望月氏、また忍者の関係性が深く、忍者を活用した観光施策を展開し、インバウンドも含めた積極的な観光誘客を図っていく。 ・日本忍者協議会は、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、忍者を日本固有の文化として世界中に発信し、忍者ゆかりの各地へ誘客することを目的に、全国の忍者ゆかりの自治体等と連携し、様々な事業展開を図ってきた。 ・第3回国際忍者学会(※)を平成31年9月に上田市で開催予定。 <p>※忍者に関する研究者や自治体、事業者などが集い、国際的研究を推進し、情報提供や相互交流等を図ることを目的とした学会。事務局：三重大学国際忍者研究センター</p> <p>第1回 平成30年2月@三重県伊賀市、第2回 平成30年9月@佐賀県嬉野市</p>
--------------	--